

## メキシコペソと人民元

メキシコペソの対ドルレートが 20 を超えてきた。メキシコペソは NAFTA (北米自由貿易協定) との相関性が高い通貨だ。トランプは大統領に就任する前から NAFTA 見直しを脱退含みで主張してきた。その後 NAFTA 維持の可能性が強まるとドル安ペソ高が進み 17 台にもなったが、合意が難しくなるとドル高ペソ安に転じる展開が繰り返された。直近ではトランプ大統領就任前後の水準近くまで戻ってきた。つまり NAFTA 崩壊の可能性がでてきた。

米国はメキシコとカナダと個別に FTA を結ぶことを主張する一方で、メキシコはカナダに続いて米国への報復関税措置や WTO への提訴も表明した。とても近いうちに NAFTA が合意できるような状況ではない。もっともトランプだからある日突然方針が変わる可能性はある。

メキシコペソ、アルゼンチンペソ、ブラジルレアル、トルコリラなどは特に大幅な通貨下落に見舞われ、ドル金利の上昇を背景に新興市場国通貨は全般的に下落基調を辿っている。一昔前なら通貨危機が引き起こされていたはずだ。90 年代のアジア通貨危機はタイの銀行の破たんを契機にバーツが下落し、インドネシアルピー、韓国ウォン、マレーシアリング、フィリピンペソなどアジア諸通貨に広がった。

資本流出が激しく、為替レートは下落し、外貨準備は急減し、資金不足で経済活動は破たんした。

アジア通貨危機が一層の破滅的な衝撃をもたらさなかったのは人民元が通貨の切り下げをしなかったからだともみなされている。アジア各国は経済の立て直しのため通貨安による輸出増加を目指した。日本円も円安に転じていた。中国はアジア諸国に対して通貨面で競争力が低下したが、その是正には動かなかった。

今回新興国通貨全般の通貨危機に陥らない一つの要因は人民元の堅調さだ。人民元は数年前大幅な資本流出、外貨準備の急減、人民元の急落に見舞われた。その後自由化に向かっていた資本取引規制を厳しくして難局をしのいだ。そして現在再び資本取引規制を緩和し、自由化路線の戻ったように見える。それに民間部門の債務の拡大やノンバンクの金融システムに与えるリスクなどを抱える。アジア通貨危機の時とは比べものにならない経済規模とリスクを内包する。

その点では今回人民元が大幅な下落に見舞われないのは不思議な感じもするが、アジアや世界にとってとても幸運なことだ。